

開講科目名 / Course	環境保健学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	WHOの定義する環境保健にそって、その概念や基本的な考え方を講義する。特に、環境と健康が絡んでいると疑われる社会問題に焦点をあて、科学的側面（特に有害因子のリスクマネジメントとリスクアセスメントについて）を中心に講義する。そして、環境と健康との関係に関する科学を学び、私たちの生活環境に存在する様々な有害物質と健康影響との関係を理解する。	
到達目標	1. 私たちの健康と環境との関係を説明できる。 2. がんとは何かを生物学的に説明できる。 3. 健康影響を評価する方法を説明できる。 4. 生活の中の化学物質の安全性がどのように確認され、評価されているのか説明できる。 5. 環境基準とは何かを説明できる。 6. 環境リスクの概念を説明できる。	
DPとの対応	2. 科学的思考力、3. 看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 環境と健康に関する社会問題 02. 環境保健の基礎概念 03. 健康影響の考え方 04. 環境に起因する疾病（1）－感染症と寄生虫症－ 05. 環境に起因する疾病（2）－新生児および栄養状態－ 06. 環境に起因する疾病（3）－非感染性疾患－ 07. 環境に起因する疾病（4）－環境に関連する他の分野の非感染性疾患のリスク要因－ 08. 環境に起因する疾病（5）－疾病別および人工サブグループ別による全世界での分析結果－ 09. 環境と健康との諸関係を利用して 10. 健全な環境に向けて	
その他の授業の工夫	毎回、講義のポイントを問う小テストを行う。	
時間外学修	事前学修: 次回の学習内容についてについて調べ、配布資料等を用いて予習する（6h）。 事後学修: 小テストや配布資料を用いて復習する（13h）。	
評価方法と評価割合	小テスト（40％）と筆記試験（60％）	
テキスト	WHOレポート（翻訳版）: Preventing disease through healthy environments（健康的な環境による疾病予防） https://www.niph.go.jp/publications/healthenvironment2019.pdf	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		